
石巻まちなか 防災まちづくり

一人一人がつくる

安全安心プロジェクト

平成28年6月6日

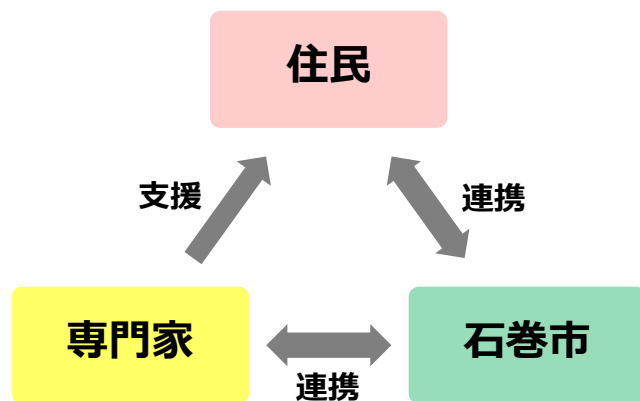
コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会

幹事・防災プロジェクトリーダー 阿部 紀代子

コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会 団体概要

地元地権者、商店主等が中心の

産学官の連携プラットフォーム



- 設立日： 平成23年12月20日
- 会長： 浅野 亨（石巻商工会議所会頭）
- 役員構成： 地権者、石巻関係各部長、商工会議所、観光協会、市民団体代表等 計43名
- 事業体制：
 - 事務局：（株）街づくりまんぼう
 - 下記3部会で復興まちづくりを推進
 - ・ 街並み部会
 - ・ 事業推進部会
 - ・ ライフスタイルブランド化部会

■ 主な取り組み

- ✓ 中心市街地における復興整備計画の総合的な検討と各街区の計画等に関する情報集約
- ✓ 地権者、行政、専門家、その他関係者間の情報共有・連携促進
- ✓ 地域の課題・問題解決に向けた対策の検討

復興まちづくりの羅針盤「石巻 街なか復興ビジョン」

実現に向けたアクションプラン、7つのプロジェクト

01 防災：一人一人がつくる安全安心プロジェクト

01 防災

一人一人がつくる安全安心プロジェクト

1. 防災を学ぶ、発信する場・機会
 - ・震災資料館の街なか整備
 - ・防災まち歩き、お茶会の実施
 - ・携帯アプリなどを活用した避難マップの作成
 - ・防災サインのワークショップ
2. 被災の経験を活かした防災の仕組み
 - ・「語り部」を通じた防災教育の伝承
 - ・有事にボランティアを派遣できる体制づくり



※写真はイメージです。実際には、被災者の体験を基に、防災教育の場として活用されています。

02 にぎわい・商店街経営

商店街ににぎわい創出プロジェクト

1. 来街者を惹きつける仕組み・商店街の連携
 - ・街なか店舗の情報を魅力的に発信
 - ・商店主との交流を生み出す仕掛けづくり
 - ・アートと連携した街なかマップ、うわきプロジェクト等
 - ・街並み、ファサードのデザインについて検討
2. 様々な出店形態の支援
 - ・手づくり市、屋台、仮設・本館店舗など路面での賑わいづくり
 - ・商店街経営プロジェクト
 - ・子どもが楽しめる仕掛け
 - ・子どもセンターの開設、子供の職業体験教室



※写真はイメージです。実際には、商店街の活性化を図るための様々な取り組みが行われています。

03 食

石巻の食 発信プロジェクト

1. 食のサミットの開催
 - ・石巻の食を基にした創作料理を募り、発信
 - ・〈スープ・ド・イシノマキ、お弁当情報会など〉
 - ・食文化、歴史を現代風にアレンジし発信
 - ・〈食マナー講座、若目料理講座など〉
2. 川べりで食を楽しむ仕掛け
 - ・屋形船、川べりの飲食店、新鮮な魚をすぐに料理〈お土産料理〉して食べられる仕掛けづくり
 - ・ロケーションとコミュニケーションが楽しめる屋台街



※写真はイメージです。実際には、川べりの賑わいを創出するための様々な取り組みが行われています。

04 アート

身近にアートプロジェクト

1. 空地・空き店舗を利用した体験型スタジオ
 - ・保険商売の二次利用
 - ・アトリエを兼ねたスタジオで住民、来客者が参加できるイベント等の開催
2. いたるところでアートに触れられる仕掛け
 - ・ショーウィンドウや建築物を利用した映像放映〈スポーツ、音楽、映画、手づくりCM等〉
 - ・手づくり市出店など発表・展示の場の確保
 - ・音楽を聞く、演奏できるイベントの開催



※写真はイメージです。実際には、アートを通じて街の魅力を発信するための様々な取り組みが行われています。

05 生活・医療・福祉

支えあいプロジェクト

1. 多世代が支えあう仕組み
 - ・高齢者サポート制度〈暮らしの情報など〉
 - ・子育てに優しい環境づくり
 - ・店舗や商店街で暮らしやすい住む高齢者サービス〈宅配など〉
 - ・地元民で運営する地元民のための集客施設
 - ・高齢者が子育て世代を支える学習教育の仕組み



※写真はイメージです。実際には、多世代が支えあえるような仕組みづくりが行われています。

06 街なかの情報発信

巻.comプロジェクト

1. どこでも街なかの生の情報が得られる仕掛け
 - ・イベントカレンダーの作成、HPなどの積極的な情報提供、街なかミニFMの開設
 - ・まちの成り立ち、歴史がわかる案内板
2. 石巻ファンを増やす仕掛け
 - ・マンガ、アート、食、歴史、自然を組み合わせた発信、特産品の開発



※写真はイメージです。実際には、街なかの魅力を広く発信するための様々な取り組みが行われています。

07 アクセス

便利で快適なアクセスプロジェクト

1. 交通の拠点から街なかへ人を流す仕掛け
 - ・新たな駅が交通拠点として、川べり近くに公共駐車場を整備
 - ・交通の拠点で街なか情報を発信
2. 歴史を継ぎ、歩いて楽しむ・歩きやすい街並み
 - ・緑豊かな水辺のプロムナードづくり
 - ・歴史を感じる街並みとしての小並み再生
 - ・街なかのバリエーション化
 - ・公園公園へのアクセス路を整備
 - ・楽しく歩ける仕掛けづくり



※写真はイメージです。実際には、アクセスの向上と街並みの美観向上を図るための様々な取り組みが行われています。

平成25年度「新しい東北」事業概要

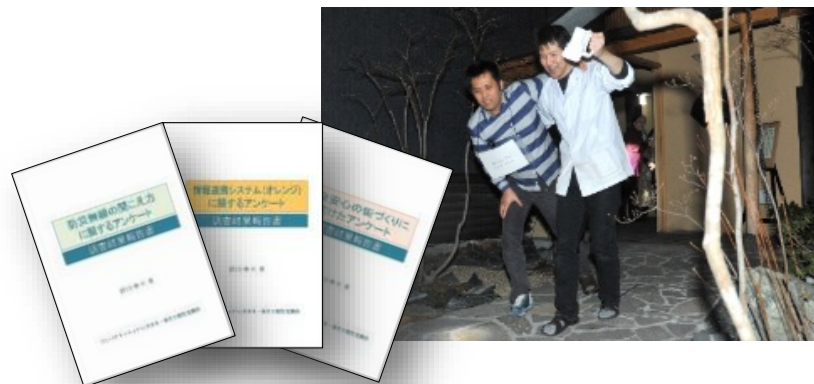
【取組 1】ICTシステム活用による防災促進と賑わい創出

- ・ 石巻市の情報連携システム「オレンジ」活用
- ・ 防災無線の聞こえ方調査
- ・ 防災訓練時の人の移動調査
- ・ 「石巻津波伝承AR」アプリの開発
- ・ アプリを活用した防災まちあるきプログラムの展開



【取組 2】事業主・地域住民の災害対応能力強化

- ・ 住民の防災意識アンケート調査
- ・ 住民対象の勉強会・ワークショップ・お茶会実施
- ・ 事業主とのワークショップ、夜の避難訓練実施
⇒「地震・津波対応の心得」作成



平成26年度「新しい東北」事業概要

【取組 1】 ICTシステムを使った防災教育と賑わいの創出

- ・ 「石巻津波伝承AR」 アプリによる
防災まちあるきプログラム実施
- ・ 同アプリAndroid版・英語版開発等
- ・ 国連防災世界会議における取組紹介



【取組 2】 事業主・地域住民の災害対応能力強化

- ・ 冊子「料理店の震災談義」の制作
- ・ 住民意識アンケート（2年目）実施
- ・ 住民向けワークショップ等開催
 - ✓ 避難ルート検証
 - ✓ 津波避難誘導サインの位置検討
- ・ 津波避難ジオラマアプリ開発
- ・ 来街者の避難誘導調査（ウェアラブルカメラ利用）



平成27年度 継続的な取り組み

地域防災力の維持・向上

- 石巻市総合防災訓練における防災講話実施
 - ✓ 避難所開設の実体験共有
 - ✓ 小学校、町内会の連携促進
- 防災ワークショップの開催
 - ✓ 新たに整備された津波避難ビル確認
 - ✓ 地域の主要機関の災害対応（東日本大震災時、その後）共有



新しい津波避難ビルの位置確認



震災時の体験、防災の取組マッピング



まちなか防災のキーポイント①

「事業主」の防災・災害対応

～商売を営む店主が、お客様、従業員、家族、
自分自身を災害から守るためにできること～

被災料理店の組合と まちづくり団体の協働による防災

- 被災経験からの学びを共有した上で、課題を図上訓練等のグループワークで検討
- 組合としての災害（地震・津波）対応の指針を決め、地域を巻き込んだ避難訓練を実施
- 記録に残りにくい小規模飲食店の被災体験～再建の取り組みをまとめた冊子『料理店の震災談義』発行
＊発行部数：H26年5,000部、H27年2,000部



全国の同業者へ向け、支援に対する御礼と
災害について考えるきっかけとなることを願い
全国料理店組合を通じて配布



被災の実体験から災害対応を考え直す



① 専門家によるヒアリング



② 図上演習ワークショップ

④ 石巻芽生会「地震・津波対応の心得」作成

お客様、社員、事業者自身の安全確保を第一に考え、

「大津波警報・津波警報、

避難指示が出された時は、

安全確保のため閉店します。」

大震災の対応
ふり返し



被災体験共有
と図上演習等
→課題整理



課題対応型の
避難訓練実施



「地震・津波
対応の心得」



『料理店の
震災談義』

③ 『夜の避難訓練』実施



⑤ 『料理店の震災談義』制作

- ・全国の料理店等へ配布（計5,000部）
- ・（特活）事業継続推進機構の

BCAOアワード2014【企業防災部門】
「企業防災賞・震災対応特別賞」受賞

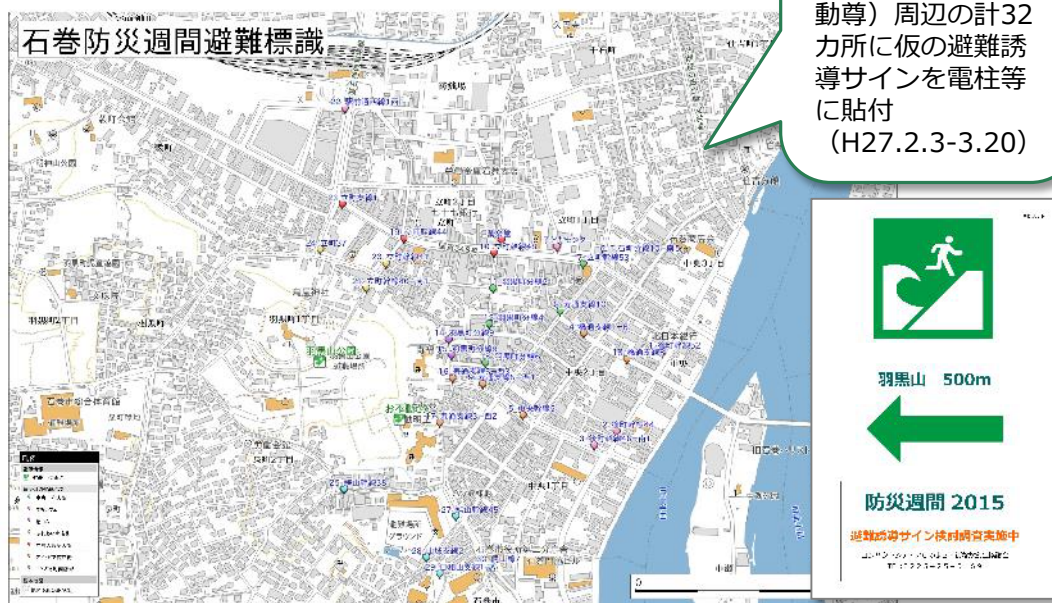
まちなか防災のキーワード②

「来街者」の安全・安心

～観光や仕事で訪れる「来街者」の皆さんが
安全に安心して買物やレジャーを楽しめる街に～

地域避難計画、避難経路と 避難誘導サインの検討

- ◆地域における津波避難のポイント整理
- ◆避難経路、避難誘導サインの設置場所検討
- ◆避難誘導の仮サインを設置し、検証



来街者の津波避難誘導の調査／訓練 ～ウェアラブルカメラを用いて～

■実施日

H27年2月2日（仮サイン無）・3日（仮サイン有）

■調査方法

- ・ モニターは地域の地理に詳しくない18名
（20歳・40歳・60歳代の男女各2名）
- ・ ウェラブルカメラを装着し、口頭で説明された避難場所へ模擬避難 ※地図の提供はなし
- ・ 1日目は通常の下況下で実施、2日目は電柱等に仮の避難誘導サインを設置した状況で実施



ウェアラブルカメラ



調査結果から見えた避難誘導の課題

- ① 「経路」の適切な説明方法、避難場所のイメージ伝達
- ② 「サイン」・「地図」の重要性
- ③ 災害発生時の「不安感」「混乱」への対処

防災まちづくり

これからの課題、取り組みの方向性

① **自分達の地域の安全は、自分達で考え、動く**

→ 震災を風化させないため、大げさなものではなく、交流会など、時折、地域で当時のことを振り返って考える時間を共有するような取り組みを地元主体で継続的する

② **防災は、行政と民間（NPOや任意団体も含む）の両輪で進める**

→ 行政は町内会や自治会組織だけでなく、民間の様々なアクターと連携し、また民間は行政に依存せず、主体的・積極的に取り組む中で、協力して効果的な連携・協力体制をつくる

ご清聴ありがとうございました。

*** 本件お問合せ先 ***

コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会

TEL: 0225-25-5169 FAX: 0225-25-5179

E-mail: ishinomaki.machi@gmail.com